

「急いでいるときこそ一呼吸 譲る気持ちで運転を」 H26年度最優秀交通安全標語

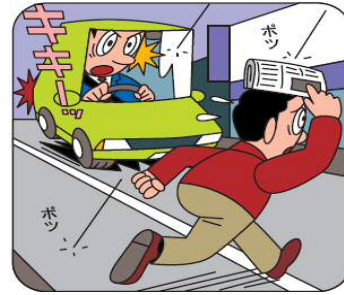
1. 今月は台風18号が日本列島に上陸し、各地でその爪あとを残しました。さらに台風19号が接近しております。そこで今回は、豪雨の対策を紹介します。

2. 安全運転のポイント

近年ゲリラ豪雨が頻繁に発生しております。そこで、豪雨に陥った場合、どのように対処をしたらよいかをまとめました。

■雨が降り始めたらスピードを落とす

雨の降り始めは路面が滑りやすくなります。又、雨が降り始めると、傘の用意のない歩行者や自転車は早く目的地に行こうとして、急に道路を横断したり進路を変更するなどの危険な行動を取ることがあります。雨が降り始めたら、スピードを落とし前車との車間距離をいつもより長くするとともに、歩行者や自転車によく目を配る必要があります。



■降雨時の歩行者の行動を認識して走行する

降雨時は車だけでなく、傘をさした歩行者の視界も悪くなります。特に風雨が強く傘を傾けて歩いている時は、ほとんど周囲の状況が見えない状態になり、車の有無を十分に確認できないまま道路を横断してくることがあります。又、歩行者は足元の路面を気にしながら歩くことが多いため、車の接近に気付くのが遅れることもあります。さらに歩行速度も遅くなりますから、横断にも時間がかかります。そうした降雨時における歩行行動をしっかりと認識し、歩行者の動きを予測した運転を心掛けましょう。



■左折時や進路変更時は後方をよく確認する

雨天時は、フロントガラスやサイドミラーに水滴が付着して前方や後方の視界が悪くなりますが、特にサイドミラーが見えにくいことで、車体の小さい自転車や二輪車を見落としてしまうことがあります。左折時や進路変更時は、サイドミラーを良く見るだけでなく、振り向いて後方確認するなどして後続車を見落とさないようにしましょう。尚、雨天時はバックするときの視界も悪くなりますから、慎重に後方を確認し、いつでも停止できる速度で徐々にバックしましょう。



■豪雨のとき

- ①視界を確保する為ワイパーを最速にして作動させましょう。それでも雨滴が拭いきれない場合、走行を続けると危険な為、安全な場所に車を止め、豪雨がおさまるまで待機しましょう。
- ②海岸や河川の近くを走行すると、高波や河川の氾濫に巻き込まれる危険がありますから、出来るだけ避けましょう。又、危険を感じたら速やかに高台に避難しましょう。
- ③集中豪雨によって、鉄道や高速道路などの高架下が冠水することがあります。このような場所を強引に通過すると、エンジン内やマフラーに浸水し立ち往生してしまう危険がありますから、冠水箇所はできるだけ避けて走行しましょう。



■冠水場所に侵入したとき

- ①冠水場所から脱出することを最優先に考えましょう。
- ②冠水場所で立ち往生してしまった場合は、直ぐにエンジンを止めて車から脱出し、安全な場所に退避しましょう。このとき、急いで駆け出したりすると水深の深い場所に足を取られる危険がありますから、ゆっくりと足で水深を測りながら歩くようにしましょう。
- ③冠水場所等に水没し、ドアが開かなくなった場合は、自動車専用の脱出用ハンマーを使ってドアガラスを割り、脱出します。そのため脱出用ハンマーを車内に常備しておくといでしょう。

■雷が発生したとき

走行中に雷が発生したときは、車外に出るのは危険ですから、車の中にとどまっておくようにします。又、雷鳴時に運転を続けると、落雷の音や稲妻に驚いて運転操作を誤ったり、落雷が気になって周囲への注意が欠けるおそれがありますから、安全な場所に停車して、雷雲が通り過ぎるのを待つようにしましょう。

